

第1回 圏域地域医療構想策定委員会

圏域	丹波圏域
日時	平成27年9月17日(木) 14:00～16:00
場所	丹波市立柏原住民センター2階A会議室
司会	石井会長(丹波市医師会長)
出席者	欠席 なし 代理人が出席: 畑委員 以外は別紙名簿のとおり本人出席
議事次第内容	1(議決) 必要病床数推計の選択について 2(議決) 慢性期の病床推計のパターン(特例)の選択について 3(議決) 在宅医療を要する患者数推計の選択について
結論	<ul style="list-style-type: none"> 必要病床数の推計については各自検討のうえ、次回に決定する。 慢性期病床はパターンB+特例を採用することで合意。 在宅療養を要する患者数は、患者住所地ベースの推計を採用することで合意。
主な意見・質疑応答	<p>(委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅を含めた患者の圏域外流入を検討するには、丹波圏域の基幹病院となる統合病院の計画が明確にならないと議論にならない。 地理的要因から、患者は入院となると県外・圏域外に流出し、いずれは丹波に帰ってきている。今後も動きは変わらないものとして検討すべきである。 患者流出については2013年データをベースに考えられているが、救急の受け入れが10年前と20年前では大きく変動しているため問題がある。 それぞれ医療圏が異なる状態で同じルールを適用するのは違和感がある。また、住民目線では、慢性期は自宅近くを希望し、回復期は特殊なりハビリ要素があるため半々、急性期はより医療機能の高い病院を希望するはず。考え方が離れてしまっている。 在宅医療は圏域で行うことは必須と認識しているが、受け入れる診療科があるかどうか課題であり、受け入れられずに流出する数は増えると懸念される。 看護師の定着が難しく、病院勤務の看護師がほとんどである。訪問看護師を増やす検討やネットワークづくりに取り組んでいる。
次回までの課題	<ul style="list-style-type: none"> 2025年の在宅医療供給量を把握するため、医師会員を対象にアンケートを実施し、次回の検討資料とする。